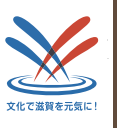


文化・経済フォーラム滋賀



News Letter

第7号 (2020年7月)

アートを地域のプラットフォームに ~人びとが芸術や文化を通してつながり、地域の力が深まるように~

文化・経済フォーラム滋賀では、滋賀県内に多くのアーティストが居住や制作活動の場としていながらも、県外に発表の場を求めている現状から、アーティストをもっと地域とつなげることにより新たな文化や地域産業を育む道がないか議論し、2019年と2020年の提言を発表してきました。

そうしたなか、新型コロナウイルス感染症が拡大し、表現活動の自粛という現実を目の当たりにすることとなりました。しかし、ロンドン在住のピアニスト・井尻愛紗さんが寄稿(2面)くださったように、この困難が同時に芸術が社会にもたらす豊かさを再認識するきっかけになったのではないかと、そして、こうした状況であるからこそ、空間や時間が離れていてもつながることのできる文化芸術が地域のプラットフォームとして重要な役割を担っていくべきではないかと考えました。

今年度の「文化で滋賀を元気に！」する調査研究・提言事業では、文化芸術を介して教育、福祉、企業など地域社会の様々な主体がつながるということをテーマに取り組みます。アーティストの活動範囲が広がり地域のネットワークが充実することで、地域の魅力を深め、地域産業の振興につながればという願いです。

スケジュールは、「第13回文化ビジネス塾」(8月29日)、「『文化で滋賀を元気に！』シンポジウム」(10月18日)で事例研究や意見交換を行い、来年2月の第11回総会時に提言を発表します。当日はフォーラム設立10周年を記念して、総会の会場でマッチング支援を目的としたイベント(※注)も試験的に開催し、皆さまに提言をイメージしていただきたいと考えております。会員の皆さまの事業へのご参加とご意見・ご提案をお待ちしております。

■ 第13回文化ビジネス塾(びわ湖芸術文化茶論)



京都と滋賀の県境にある比叡山に位置する共同アトリエに所属する20~30代のアーティスト「山中suplex」をゲストに、滋賀を居住、制作の場としているアーティストに滋賀で活躍の場を広げてもらうには、何が求められるのか意見交換します。若手アーティストの、今の生の声をお聴きしたいと思います。

ゲスト/山中 suplex

(石黒健一氏、小笠原周氏、小宮太郎氏、堤拓也氏)

聞き手/小吹隆文氏(美術ジャーナリスト)

コーディネーター/藤原昌樹氏(彫刻家、桃山学院教育大学准教授)

【日時】8月29日(土) 15:00~(16:40 終了予定)

* 14:10 JR 大津駅北口タクシー乗り場集合

【場所】山中 suplex (大津市山中町 91)

* 事前のお申し込みが必要です。チラシまたはホームページをご覧ください。

■ 「文化で滋賀を元気に！」シンポジウム(ビジネスカフェ)

若者を魅了する徳島県神山町から、町の発展を牽引してきたNPO法人グリーンバレー元理事長の大南信也氏を講師にお招きします。「ITベンチャーが徳島の山奥の町に続々とやってきた」というNHKの報道から10年経ち、「発酵の段階」に入り始めた神山町。現在は、起業家が集まると必ず話題になる次世代型の教育に挑もうとされています。その原点はアーティスト・イン・レジデンスでした。今も「神山町の生命はアート」という大南氏のお話をお楽しみに。コーディネーターは、(一財)地域創造などで活躍のジャーナリスト・山下里加氏(京都芸術大学教授)です。



【日時】10月18日(日) 午後(時間未定)

【場所】滋賀県立文化産業交流会館(米原市下多良 2-137)

【内容】・講演 大南信也氏(NPO法人グリーンバレー理事)

・パネルディスカッション

パネリスト(調整中)

ファシリテーター 山下里加氏(京都芸術大学教授)

大南 信也(おおみなみ しんや)

1953年徳島県神山町生まれ。米スタンフォード大学大学院修了。1990年代初頭よりアートや環境を柱に地域と世界をつなぎ、グローバルな視点での地域活性化や、ワーク・イン・レジデンスによる若者や起業家の移住、ITベンチャー企業のサテライトオフィス誘致による雇用の創出などに取り組む。クリエイティブに過疎化させる「創造的過疎」を持論に、多様な人が集う「せいかいのかみやま」づくりを進めている。

* 8月下旬頃からホームページ等で参加申し込みを受け付けます。

◆ 提言発表

「びわ湖・アーティスト・みんぐる」(※注)の開催

【日時】2021年2月12日(金) 正午~2月13日(土) 18:00

* びわ湖ホール閉館時間を除く

【場所】びわ湖ホールメインロビー(大津市打出浜 15-1)

【企画】秋村洋、角間利昭、加藤賢治、田中哲也、藤原昌樹

提言発表は、2月13日(土)に開催する第11回総会にて行います。4面をご覧ください。

びわ湖・アーティスト・みんぐる BIWAKO ARTISTS MINGLE

第11回総会で発表する提言をイメージしていただけるよう、若手を中心とした作家やアーティストに販売や営業につながる作品の展示や実演のほか、活動範囲、価格、得意ジャンルなどの情報提供を行っていただきます。アーティストが様々な分野の方と出会うことにより、今後の活動の開拓に繋げていただくことを狙いとしています。

“mingle”とは、人と交わる、話をする、それぞれの特徴、アイデンティティを失わせない状態で混じり合う意味です。

五線紙に綴られる未知の即興曲

私たちの毎日は英国国営放送 BBC の朝のニュースで始まり、夕方 18 時のボリスジョンソン英首相の緊急事態会見を聞くことが日課となっていた。ヨーロッパ中を津波のように襲ったコロナの感染拡大の速さと勢いは凄まじいもので、ロンドンも「目には見えない戦争」が始まるのかという異様な空気に包まれていた。3月23日イギリスは遂にロックダウンという長い戦いに突入し、街はゴーストタウンのように空っぽになった。そしてその3日後、私は東京に飛び立つことになる。ヒースロー空港までは親友に車で送ってもらい、ハグを禁止されているため、空気中に腕を大きく広げて「気をつけてね」と別れた。マスクとサングラス姿に、薄いゴム手袋をした私たち。サングラスの下では、涙がこぼれ落ちていた。

免税店もカフェもレストランも全て閉鎖された誰もいない空港は、まるで映画のロケ地のような。搭乗口には防護服を着た人の姿もあった。どんなに立派に築き上げられた街でも、建物でも、ブランドでも、その中で生きる人たちの人生があってこそ、この社会は生きているのだと痛感した。約12時間のロンドンから東京までのフライトは、安全のために機内食が無しとなった。羽田空港の検疫検査を通過してこの脱出劇を終えた私は、大きなスーツケース2個と緊迫感の全てを家族にピックアップしてもらった。14日間の自粛生活、こうして日本での長期滞在は幕を開けた。

コロナの感染拡大状況と国の対策、治療薬やワクチンの研究など情報は飛び交い、毎日世界は変動し続けた。この時点では、コロナが全世界に及ぼす、政治的、経済的問題、国と国との関係とそのダメージの大きさを想像することはできなかったかもしれない。



(左) ファッション雑誌撮り
(下) イタリア映 'AISA' の撮影風景



14歳にてワルシャワのフィルハーモニー・ホールにてピアノコンチェルトを共演、翌年ストックホルムのコンサートハウスでリサイタル・デビューを飾る。それ以来、世界一流の国際音楽祭やコンサートホールより招待を受け、リサイタル、室内楽コンサートを開催。コンチェルトソリストとしても、国内外の数々のオーケストラと共演。またアルバムも国内外でリリースしている。2004年ストックホルム王立音楽大学演奏科卒業。2005年ギルドホール音楽大学演奏科修士号取得。2007年英国王立音楽大学アーティスト・ディプロマ（国家演奏家資格）を取得並びに最優秀賞を受賞。2009年第34回滋賀県文化奨励賞受賞。2010年Steinway & Sons社より、スタインウェイ・アーティストとして認定。同年、東京オペラシティにてデビューリサイタルを開催。2016年ニューヨークのSteinway & Sons社が開発した'SPIRIO'のレコーディング・アーティストとして契約。2017年ニューヨークのカーネギー・ホールにてデビューを果たす。2018年英国王立音楽大学より「RCM名誉代表」と任命。2019年、モンテカチーニ・ピアノ・フェスティバルの芸術監督に就任する。CNN テレビ、英国BBC ラジオ・テレビ、Classic FM やイタリア映画に出演するほか、ヨーロッパで人気の美容、ファッション、ビジネス雑誌の特集インタビューに取り上げられ表紙を飾る。2020年、スパンズウィックより献呈されたピアノ作品「AISA : Sand, Silk & Love」がドイツのショット社より出版。同年、エミー賞にノミネートされたハリウッド映画作曲家・ティルマンの新曲をソリストとして世界初演し、ハリウッドで新曲をリリースした。

ピアニスト 井尻 愛紗 (個人会員)

い。個人のレベルでは、私が芸術監督を務めているイタリアの音楽祭をはじめ、予定されていたコンサートや収録のキャンセルと延期が相継いだ。医師として悲惨な現場で働く友人も多かった。私の毎日は相棒のスタインウェイピアノと二人っきりとなり、ロンドンと中国の生徒たちへのオンライン・レッスン、ピアノコンクールの審査、スタインウェイ&サンズ社がプロデュースするオンライン・コンサートの全てを自宅からお届けした。そのためにプロ使用のマイクを買ったり、高画質カメラのアプリをダウンロードしたり、三脚と'MacBook Pro'の使い方を研究したり、より質の良い仕事を提供したいと自分なりに工夫をした。これからの時代に対応するための面白いアイデアも湧き、新しいプロジェクトにも取り組み始めた。それは自粛期間中、誰もが様々なスケールで経験したことかもしれない。先の見通しがなくなったら、人は試行錯誤しながら「新しい道」を開発していくということだった。まるで音楽の中での「即興」を弾いているように。即興では予期せぬ音から、より魅力的な新しいハーモニーが生まれ音楽が発展していく。人生も音楽も「時の流れ」の中で生きている。この未知の経験は、私たちを考えさせ、新しい生き方を生み出す、創造力と忍耐力の大切さを教えてくれた。



これからの道のりをどう歩むかは、私たち一人一人のマインド・セッティングに任されているのだろう。世界中が同じ問題を抱えている今、心をつなげて手を取り合い、コロナ、人種差別、政治、地球温暖化問題の全てと向き合って、明るい未来へのステップを踏みたいものだと思う。生演奏を奏でたり聴くことができなくなった今、音楽や芸術のもたらす社会の豊かさも再認識できたのではないか。また家族や周りの人たちからの思いやりや愛情のありがたさも、改めて感じる事ができたのではないか。このトンネルの先には最高のサプライズが待っていると信じて、世界が一刻も早く平穏に元気になるよう、今日の「音」を奏でたいものだ。

井尻 愛紗 (いじり あいさ) |



<http://www.aisajiri.com>

感性の再構築 ～受け継がれてきた「モノ」「心」に感謝し次世代へ～

琵琶湖撫子協会 (団体会員) 代表 宇野ひと美

「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ」との想いが込められた「令和」が始まりました。これから求められるものは、感性と教養、そしてコミュニケーション能力といわれています。私たちは、着物等の和文化をより身近に、そして心に残る「学び」と「気づき」の源を「おもてなし」を通してお伝えする場、環境を作りたいと考えております。

昨年11月23日に、当会の一大イベント『第2回近江のおもてなし』をびわ湖大津館で開催いたしました。様々なジャンルの近江の和（お茶・和菓子・湖魚・信楽焼・扇子・織物など）を集め、物販や体験（お茶席・お香・陶芸体験など）をお楽しみいただき、ステージでは着物ショーや舞踊等『五感で楽しむ和の祭典』として、気軽に和を楽しめる場を発信。当日は1000人弱のご来場者で賑わいました。また、今年2月には明智光秀ゆかりの地として注目の西教寺にてびわ湖大津観光協会、滋賀県美容組合の協力の下、『「戦国のおしどり夫婦」×「ヘアドネーション」～夫・光秀を支えた内室・熙子の黒髪物語。誰かのために、私ができること～』を開催いたしました。病気や不慮の事故で頭髪を失った子供や女性のために、寄付された髪の毛でウィッグを作り提供する「ヘアドネーション」。光秀の内室熙子が夫を支えるために黒髪を切ったエピソードになぞらえ啓発イベントを実施することで、ヘアドネーションだけでなく、「誰かを想って行動できる優しい心」を広めたいと開催いたしました。当日は女性6名が内室熙子に扮した着物姿で登場し、カットした髪の毛はNPO法人JHD&Cに寄付いたしました。

私たち琵琶湖撫子協会は、今後も和を通して「滋賀の魅力再発見」の要素を五感で感じながら「楽しむ」だけでなく、「学ぶ・気づく」イベントや講座を開催し、感性を磨き自国の美意識をあらゆる世代に伝え広げていきます。



ヘアドネーション企画の様子



「近江のおもてなし」開催の様子

写真下中央 琵琶湖撫子協会 宇野代表

近江の文化をお菓子に込めて 全国へ

株式会社 叶匠寿庵 (法人会員) 秘書広報室 高橋里佳

開発期間6年 創業者から3代目に受け継がれた創作和菓子

当社創業者の芝田清次は、近江にまつわる歴史や文化を映した創作和菓子で日本の風俗や慣習・美意識を表現し、残そうとしてきました。世にないものを生み出すという創作へのこだわりは、原料や材料の吟味も含まれていました。当時「和菓子は甘いもの」という概念がある中で、梅などの酸味が強い素材はタブーでした。「どの店もできない梅の和菓子をつくることができれば、それは紛れもなく世にない商品」という想いのもと創作を始め、まずは梅の林を手に入れ、自分の思うような梅を育て、落ちる寸前の完熟梅を梅酒に漬け込みました。

昭和49年、試行錯誤の末誕生した「標野(しめの)」は、炎のような赤色と情熱的な額田王と大海人皇子の万葉恋歌からとった名前がマッチし、爆発的な人気を呼んだ結果、「創作和菓子の叶匠寿庵」は一躍有名となりました。



城州白の梅林

令和2年6月、46年ぶりに梅のお菓子「標野」はリニューアルを果たしました。発売当時の「標野」の赤色は着色料を使用しており、梅の色素で赤を表現することは長年の課題でした。職人でもある



標野

3代目社長の芝田冬樹が、果皮も果肉も赤い希少な新品種「露茜(つゆあかね)」に辿り着き、創業者が生み出した標野の背景や歴史を大切にしながらも、露茜を生かした新しい色と形、味わいを開発。本社工場「寿長生の郷(すないのさと)」で大切に育てた「城州白(じょうしゅうはく)」を1年熟成させた梅酒に、露茜の赤い梅酒を加えることで、額田王の「あかねさす」恋歌に詠まれた近江の情景を、美しい色の階調で表現が可能となりました。6年もの開発期間を要し、配合や漬け込み期間を調整、理想とする形状のために新技術「液体での深絞り充填」も取り入れ、改良を重ねています。甘さは抑え、梅の風味はより濃く感じられるすっきりとした「大人の梅酒ゼリー」へと生まれ変わり、この夏、皆様に楽しんでいただいています。

これからも地元近江の文化をお菓子へと込めて、全国へ発信してゆきたいと考えております。

連載 レポート近江屋考

「きのう、きょう、あす」 終

歩くブログ記者 岸野 洋

京都新聞社友、前・(公財) 滋賀県文化振興事業団理事長

全国に「近江屋」という屋号、どれほどあって、どんな業種があるのだろうか。文経フォーラム滋賀が立ち上がってすぐ始まった調査からもう10年以上経つ。件数、業種のタウンページ調べ、アンケートなど行い、年一度のフォーラム開催を続け、一応の役割を果たして、それを引き継ぐように気ままにレポートしてきた。調べて、近江屋に歴史があって、今があって、そして明日へ、全国でなお健在なり、である。



最初の調査は事務局、フォーラム企画は幹事で成安造形大准教授、加藤賢治さんら。当時のタウンページ調べでは、近江屋の屋号300軒、関東に多く、業種は菓子屋、酒屋、呉服屋、薬屋など様々だった。調査して、いつか、ふるさと滋賀で、近江屋さん集合の全国大会、近江屋博覧会が出来ればいいなあ〜の思いがあり、京都新聞1面凡語にも取り上げてもらった。「屋号には文化がある」と記述があった。

このレポートもそんな夢を引き継いで、著書の中、町歩き看板で近江屋点検だった。最初のレポートで紹介した長崎の鐘を歌った国民栄誉賞の藤山一郎さんは、お母さんが滋賀県出身、東京で呉服の近江屋さんを切り盛りしていた。米大リーグの著書多い慶応大名誉教授、池井優さんの著書で知った。

東京深川の門前仲町で、酒屋の近江屋さん。滋賀県がかつて発行していた冊子に女将さんが登場、尋ねて行った。近江八幡出身、この女将さんあって、この店の今ありと二代目娘さんに聞いた。これもレポート紹介した。

坂本龍馬、中岡慎太郎暗殺は、土佐藩出入り、醤油屋の近江屋さん。京都の河原町、今はかつぱ寿司になっている。店前に碑と駒札。フォーラムで近江屋舞台の龍馬暗殺事件の真相、霊山歴史館の木村幸比古副館長の講演を聞いた。池波正太郎の小説、鬼平犯科帳などにも、呉服問屋の近江屋など時代小説に欠かせない。エッセイスト嵐山光三郎の近著「ごはん通」には、江戸前握り寿司の始まり店の一つに「近江屋」の記述があった。歴史の中の近江屋、多様である。

京都市左京区高野に「寿司の近江屋」さん。加藤幹事らがフォーラムのパネラー依頼、「口下手なので〜」と来てもらえなかった老舗。日野町出身、ファミリー感覚の店が創業の趣旨と。近くに「お米の近江屋」さんも。京都には岡崎に「お酒の近江屋」さん、烏丸五条には京都織物業界リードする「呉服の近江屋」さん。大阪へ行けば、鶴橋に「質屋の近江屋」さん、通天閣の新世界には「串の近江屋」さん。SNS時代、ネットで「近江屋」と検索すれば、西にも東にも出て来る。レポートの終わりに当たって、近江屋さん集う全国大会、夢から現(うつつ)を願う。

文化経済サロン(トップセミナー)

京都精華大学学長ウスビ・サコ氏の講演会を行います

劇場法や文化芸術基本法が制定され、劇場、音楽堂においても文化芸術を活用した共生社会の実現への取り組みが求められています。人々が違いを認め合い、地域で幸せに暮らすには私たちはどうあるべきか。空間人類学がご専門で、打ち水の範囲と人間関係などを研究され、「他者との曖昧な領域を容認すればもっと心豊かに生きられる」と提案するウスビ・サコ氏にお話を伺います。

日時: 10月21日(水) 14:00~15:30

場所: びわ湖ホール 小ホール(大津市打出浜15-1)

内容: 講演「文化芸術と地域の活性化~多様性の推進(仮)」

講師: ウスビ・サコ氏(京都精華大学学長)

*参加無料。お申し込みは文化・経済フォーラム滋賀事務局まで

2020年度企画推進員 *任期は2021年の総会最終時まで

秋村 洋 (株)プラネットリビング代表取締役
 角間 利昭 (株)しがぎん経済文化センター文化事業部次長
 加藤 賢治 成安造形大学准教授
 中村 順一 文化・経済フォーラム滋賀 副代表幹事
 藤原 昌樹 彫刻家、桃山学院教育大学准教授

敬称略・五十音順

第11回総会・交流会

2021年2月13日(土) 13:00~(予定)

会場: びわ湖ホール 小ホール(大津市打出浜15-1)

内容: 総会、提言発表、「2020文化で滋賀を元気に!賞」表彰式、講演会、交流会(予定)

フォーラム設立10周年記念開催:

びわ湖・アーティスト・みんぐる

BIWAKO ARTISTS MINGLE

びわ湖ホールメインロビーにて、若手アーティストによる作品展示や実演(ミニコンサート)を行います。

第10回総会でご講演いただいた澤田康彦氏

(編集者、エッセイスト、「暮しの手帖」前編集長)の講演録をホームページに掲載しております。ぜひご覧ください。こちらのQRコードからアクセスできます。



[発行・問合せ] 文化・経済フォーラム滋賀 事務局
 〒520-0806 滋賀県大津市打出浜15-1 びわ湖ホール内
 電話: 077-523-7146 FAX: 077-523-7147 bunka-keizai@biwako-arts.or.jp
<https://www.biwako-arts.or.jp/rd/bunkakeizai/>